



ほくえい

<http://www.hokuei.obihiro.ed.jp>

令和5年12月20日 発行者 校長 柴山 敬

- 自らすすんで学ぶ子ども
- 互いを認め合い自分と相手を大切にする子ども
- 健康や安全に気を付ける子ども

2学期をふりかえって 「反応する」ことの大切さ

学校便り第10号(8/29発行)で紹介しましたが、2学期の始業式で子どもたちに対して、学校生活を充実させるために3つの行動目標を提案しました。

- ① 一歩踏み出して行動してみよう
- ② 反応をしよう（あいさつや返事を意識して）
- ③ 最後まで話をきいて受け止めよう

この中で特に注目したいのは「②反応しよう」です。2学期をふりかえり、子どもたちの様子を紹介します。

挨拶・返事

挨拶や返事は、人と人との安心感や信頼感を築くための基本的なコミュニケーションです。学校や学級においては、その集団の「心理的安全性」を高めることにつながります。



前期に引き続き児童会では、自分たちが主体となって過ごしやすい学校にしようと「あいさつ運動」を展開し、朝、正門で登校してくる児童と笑顔で「おはようございます！」と挨拶を交わしています。また、授業やその他の活動では、返事が心がけ、自分の意思を伝えようとする姿勢がみら

れています。

「状況に応じて反応する」

「反応する」ことは、挨拶や返事ばかりではありません。子どもたちの中には、教室で誰かが落としたごみを進んで拾ったり、クラスメイトが給食中に汁などをこぼした時に、床を拭くのを手伝ったり、さらには登校中に通学路に散乱しているごみを率先して集めたりと、周りの出来事を自分事として捉え、行動するという大変立派な姿もありました。「状況に応じて反応する」ことは集団で生活する上で大切なものです。人の役に立つだけでなく、「心理的安全性」を高めます。活躍した子どもたちを誇りに思うとともに、どの子どもたちにも「状況に応じて反応する」ことを大事にしてほしいと思っています。

日 曜		1月の行事予定
12	金	3学期始業式 3学期の目標発表
15	月	Sアップ 返本週間(19日まで)
16	火	登校指導①
17	水	Sアップ
19	金	給食費納入(低学年) 登校指導②
20	土	北栄げんきクラブ
22	月	給食費納入(高学年) 本貸し出し
23	火	児童会④ 冬道教室(1,2年) 給食費納入(予備日)
24	水	Sアップ
25	木	給食費自動振込日 Sアップ
26	金	スケート記録会(6・3年)
29	月	スケート記録会(5・2年)
30	火	スケート記録会(4・1年)

コミュニティ・スクール協議会 教育課題について意見交流

12月9日に第2回コミュニティ・スクール協議会が開催されました。コロナ禍を経て今年5月に5類感染症への移行を受けて、これまで取り組んできた活動等を振り返るとともに、上半期の学校評価アンケートの結果などをもとに教育課題を抽出し解決に向けて意見を交わしました。



学力向上・体力向上

本協議会の江藤敏雄会長と竹川暢コーディネーターが中心となり、学力向上と体験活動促進をねらいとして夏休み中に実施した「学習スタジアム」については、この冬休みにも実施予定（12/25、26）。また体力向上については、秋に「うらほろマラソン」出場・完走を目標に取り組んだ「ファン・ランニング」は募集定員を上回る参加があり一定の成果があったこと、そしてスケートリンクを使用可能な期間には、子どもたちが目標をもって自主的にスケート遊びに親しめるような取組を行うことを確認しました。

家庭教育支援

学校評価アンケートの結果から家庭でのスマートフォンやタブレットなどの使用ルールについて子どもと保護者に意識の違いがあり、子どものスマートフォン等の使用が長時間になる傾向にあることや、オンラインゲームで消費者トラブルに巻き込まれるケースがあることなどの問題について情報を共有しました。さらにスマートフ

オン等への「依存」も心配されるため、一定時間使用せず、スポーツや読書、家族での会話などの時間を充実させること、家庭でのルールづくりが大切であることなどの意見が交わされました。家庭でのルールづくりを後押しするための方策を年度末までに検討することとなりました。

《お知らせ》

北栄小学校「学習スタジアム」

日時 令和5年12月25日、26日

場所 北栄小学校

※詳しくは別途配布したプリントをご覧ください。

地域の先生から学ぶ できることから始めよう「SDGs」

地域との連携・協働の一環として、地域の専門家の方を「先生」としてお招きし、5年生を対象にSDGsについてご指導をいただきました。



ほくでんグループの職員の方が出前授業で「北海道SDGsアクションブック」や学習支援動画コンテンツを用いて、地球規模での環境問題や食糧問題などをはじめ、日本を含む多くの国々のSDGsの17の目標の達成に向けた取組の状況についてわかりやすく説明してくださいました。授業のまとめでは、子どもたちは日常生活をふりかえり、水の無駄づかいを減らしたり、給食の食べ残しをできるだけ少なくしたりするなど、自分（たち）にできることを考え発表していました。

このことは世界の一員として「状況に応じて反応する」ことであり、子どもたちにとって有意義な時間になったことでしょう。